ゆずの森温泉（馬路温泉再開発計画）

高知工科大学社会システム工学科
1100422　西岡　百合子

1-1. 背景（馬路村）

高知県安芸郡馬路村は、総人口が約 1000 人であり高知県の中で 2 番目に人口が少ない村である。

安田川上流域の自然豊かな山村で、落ち着きのあるゆっくりと時間が流れる場所である。

馬路村は杉の産地であり、明治 40 年から森林鉄道が走り始めました。昭和 38 年に森林鉄道が廃線となり、現在では観光用に復元されている。

また山間地域で平地が少なく、田畑をつくるためには石積み工法を用いて田畑をつくってきた。今では、その田畑に柚子を栽培している。

そのため生産品である柚子が有名であり、観光客が増加している。2006 年に新柚子工場ができ、現在では柚子の化粧品製造工場が建設中である。今後さらに馬路村は柚子の生産に力を入れるとみられる。

しかし近年、柚子の需要が高まっており、柚子の栽培地の拡大が課題となっている。

1-2. 背景（馬路温泉）

この村に馬路温泉があり、設立してから 30 年経過している。年間利用者数は6万人で9割が県外の方である。

現在の温泉の浴室は露天風呂がなく、室内の浴槽が 2 つで窓から景色を見ることが出来る。

また一つの建物にレストラン、休憩室、お風呂などがある。人の動線を考えると機能的で良いが、ゆっくりと時間が流れる場所で利便性を追求する建物で本当に良いのだろうか。

森林鉄道トンネル跡

石積みによる柚子の棚田

現在の温泉地

2. 課題・コンセプト

建物の老朽化及び、利用者数の増加に伴い新しく温泉を軸に再開発する計画を行う。

そこで村の中心産品である柚子をモチーフとし、馬路村に昔からの残る石積み工法と柚子畑を取り入れた自然と融合した温泉施設を提案する。

3. 敷地

現在の温泉の隣は宿泊施設がある。宿泊施設は既存のままとし、温泉と温泉周辺を再開発を行う。

温泉の周辺に、お土産屋、郷土資料館、釣堀屋、工芸センターがある。運営の事情により、お土産屋、釣堀屋、工芸センターが閉鎖されている。

4-1. 全体計画

敷地に 1m ずつの石積みでできた柚子畑をつくる。

ゾーニング計画として施設利用者は、各施設を単一に利用する場合と様々な組み合わせで利用する場合が考えられるので、建物を用途別に分棟化した。

川に平行するように、宿泊、駐車場、エントランス、お風呂という順に配置した。

現在の配置図　S=1/2000

4-2. 全体計画（断面）

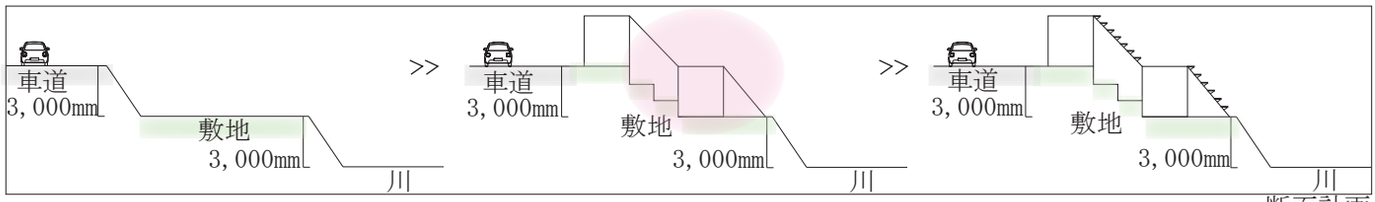
断面での建物の配置は、車道・敷地・川が3mずつの段差があり、各フロアの高さを下げることにより建物のボリューム感を抑える。

また部屋に日光を取り入れるために斜面の屋根をガラス張りにする。しかし、ガラス張りにすることにより直射日光が入り、部屋の温度が高くなる。

そこで、ガラス張りの屋根の上に木造のルーバーを付ける。それにより直射日光を和らげる。

5. 施設内容

- レストラン（20テーブル）
- バー（12席）
- 休憩室
- 郷土資料館
- テラス
- 男風呂
- 女風呂
- 家族風呂



断面計画

宿泊　レストラン　事務　トイレ　ロビー・お土産売り場　休憩室・バー
郷土資料室　テラス　家族風呂・男風呂・女風呂

配置図　1/1000